銃砲を竊弄したといふのである。元來趙士楨の說は朝鮮の役に日本軍が銃砲を能く用ひたのに發憤して作られたものであり、多少その點を强調し過ぎる嫌はあるが、とに角、奴兒哈赤の許でも、銃砲の研究は怠らなかつたものであらう。この上書には「癸卯歲重陽後二日識」と書いてあり、癸卯は萬曆三十一年である。私は嘗て朝鮮の記錄では萬曆二十八年が龔正陸のことの見える最後であると記したが、これで見ると、萬曆三十一年の頃まで龔正陸は生きてゐたのである。しかし既に「萬一老死」すれば、奴兒哈赤・速兒哈赤を抑制する者がなく、一大事だと懼れられてゐたのであるから、當時の頽年の狀は想像出來る。恐らくその後間もなく死去したのであらう。その死の原因は前の小篇で推測した如く、やはり誅死したのかも知れない。

（神器譜の記事は凡て和田博德氏の敎示を受けた。ここに記して謝意を表する。）

（東京大學名譽敎授）

東洋學報第三十九卷第四號

水谷眞成「唐代における中國語語頭鼻音の Denasalization 進行過程」誤字訂正表

頁	行	誤	正
3	7	阿爾眞陀	阿爾眞那
7	1	のであると見る方が	ものであると見る方が
8	1	慧苑は壤、或は壤と	慧苑は攘、或は壤と
12	14	千眼千臂觀世音	千眼千臂觀世音
14	10	不空羅索	不空羂索
〃	16	恆他孽多	恒他孽多
15	9	不空羅索	不空羂索
16	3	恆爾也他	恒爾也他
〃	4	吠努吠	訥努吠
21	9	M. L. Dey	N. L. Dey
25	1	「阿奢哩貳寺」	「阿遮哩貳寺」
28	4	Čakānkān	Čakānīkān
〃	10	語尾をもつもので あるから	語尾をもつものであるから
30	上5	araṇya-vhārin	araṇya-vihārin